



大都第553号

平成19年4月25日

国土交通省道路局長

宮田年耕様

愛知県丹羽郡大口町長 酒井



中期的な計画の作成にあたってのご意見の提出について (回答)

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のありましたことについては、
別紙のとおり要望します。

物流網の整備と大地震に備えた地域防災のネットワークづくり のための国道41号の早期6車線化を

中部圏の経済は、名古屋圏を中心とした、環状的または放射的に発展を続けております。この地方の主流国道としては、環状線としての国道155号、放射的幹線として国道19号、国道22号そして国道41号があります。

ご案内のとおり国道19号あるいは国道22号は、愛知県内に於いては整備が整い、6車線あるいは8車線の道路幅員を有しております。この道路拡幅により全体として渋滞はなくなりましたが一時的な渋滞はまだ続けております。しかし、国道41号は、小牧市村中交差点以北については、昭和44年の名濃バイパス全線（名古屋市北区黒川町から犬山市五郎丸まで）供用開始以来その形態（4車線）を変えておりません。そのため、犬山市や隣接する岐阜県東濃地方といった郊外に発展したベッドタウンや企業進出の影響により国道41号は、現在慢性的な渋滞をきたしております。

岐阜県飛騨、東濃方面あるいは尾張北部方面から名古屋圏へのアクセス道路として重要な役割を担っている国道41号は、需要がますます増大してまいります。

視点を災害に向ければ、この東海地方は、いつ起きてもおかしくない東海・東南海・南海地震の防災対策が近年盛んに叫ばれています。

阪神淡路大震災、新潟県中越地震そして今年3月に発生した能登半島地震といった災害に対し、発生後の救援用道路の確保が最優先と聞いております。すなわち、他県や他市町村からの救援物資あるいは生活ライン復旧活動に欠かせないためであります。

愛知県尾張北部に位置する大口町を縦貫している国道41号は、東海環状自動車道的美濃加茂インターと接続しています。この国道41号が、地震による災害時には、北部方面からの主要道路となり、この地方ばかりでなく名古屋方面への救援物資の搬入道路の役目を果たし、災害時における尾張地方の復興に大いに役立つものと考えております。

以上のことから、圏域の発展あるいは防災ラインの構築のためにも、早急に国道41号の6車線化を要望するものであります。